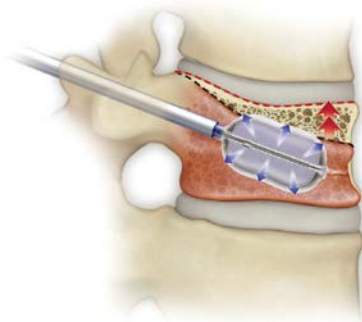


脊椎圧迫骨折を対象とした経皮的後彎矯正術

BKPは最近メディアにも取り上げられ、患者様の中でも認知度が上昇してきている脊椎圧迫骨折に対する新しい治療法ですが、当院でも本年より開始致しております。本治療は、全身麻酔にて、経皮的に、バルーンを用いて椎体高の回復を図ると同時にセメント充填用の空洞を形成し、バルーンの抜去後に高粘度で視認性の高いセメントを手動で充填することにより椎体を固定します。手術時間は1時間程度で、出血量もごく少量であり、高齢者の患者様には比較的負担が少ない手技の一つです。



この施術はこれまでのセメントによる椎体形成術（Vertebroplasty）と比べ、

1. 椎体高をある程度回復できること
2. 椎体内にスペースを作るため、セメントの漏出率を低減できること

が特徴です。以前より欧米ではこの施術が広まっており、日本国内においても治療が実施され、その効果と安全性に基づいて薬事承認されております。

施術対象となる患者様の主たる選択基準は以下の通りです。

- 1) 原発性骨粗鬆症による1椎体の急性期脊椎圧迫骨折
- 2) 十分な保存加療によっても疼痛が改善されない患者様

受傷後に日数が経過し圧潰が進行しすぎた場合や、椎体後壁（脊柱管側の椎体壁）に骨折が認められる場合等、BKPを適用できない場合があります。そのため早めにBKPにて治療することで寝たきりを防げる有用な手術です。

